

広報

第1号

千葉県訪問看護ステーション・連絡協議会発行

責任者 宮崎 やす子

千葉市中央区新港 四九一四

平成 15年 1月

平成十五年度の幕明けと共に、介護保険の見直しに伴う給付内容が大幅に改定される予定となり、医療保険も年々改悪され四月からは「本人」も三割負担となります。

どちらを見ても明るいニュースもなく、早二月を迎えようとしています。当協議会の十四年度の活動の一つである広報紙をようやく発行するに至りました。お忙しい中、ご協力を頂きました地区部会の皆様に感謝申しあげます。地区活動では事例検討会を実施しているところが多くなっており、

私たちの仕事は『会議室で起きているのではない、現場で起きているんだ！』の如く事例で看護を見つめなおすことが最も有効と思われます。どうかユニークな地区活動が皆様の活力になりますことを願っております。

宮崎 やす子

千葉市地区部会活動

ひまわり訪問看護ステーション

大和田 陽子

千

葉市地区部会では、病院と訪問看護ステーションとの連携について、悩んでいる所長が多く、以前より所長会の話題に挙がっていました。具体的には、大きな病院から利用を受ける時のルートが分らない、また病院によっては最近窓口が統一され、連携が取り易くなったという所もあり、各病院によって対応方法が違うため、苦勞されている所長が多かったようです。

平成15年4月に千葉県がんセンターで緩和ケア病棟が開設される為、今後訪問看護ステーションと連携を取る為の話し合いを持ちたいとの連絡が、がんセンターより来しました。所長会で協議の結果、病院と訪問看護ステーションとの事例検討会を開き、スタッフレベルでの話し合いの場を持つ事になりました。日程は平成15年2月前後に調整中で、互いの理解を深め合い、今後の連携がスムーズに取れるような実りあるカンファレンスになるよう、現在準備を進めています。

印旛・山武地区の活動について

日の丸訪問看護ステーション

鈴木 クミ子

当地区の管理者は経験が浅かったり変わったりする事があり、所長会議では、情報交換や悩みを出し合う場ともなっている。

今年度の活動は、所長会議三回、研修二回を計画した。一回目の研修は9月26日事例を通して最新のケア、知識について学ぼうと四ステーションより事例を出してもらい事例検討を行った。

リハビリ患者の在宅看護では短期間目標を立てて看護を行う事の大切さ、PTとの連携により、より効果的な看護が出来たと感じた。又、在宅酸素療法患者の在宅看護では『ブクブク呼吸』の紹介があり参考になった。早速とりいれたステーションもある。

普段、忙しきにかまけて、なかなかケースについてまとめる事が出来ないが、このような機会に振り返る事ができたのは非常に良かった。今後も有意義な研修、活動を企画していきたい。



第二回スタッフ交流会

夷隅・長生・市原地区会長 泉かつ子

平成14年11月30日、昨年度に引き続き、第二回スタッフ交流会を開催しました。12ステーション、29名の出席があり、当地区の田中理事の母体病院である五井病院理事長の川越一男先生に「在宅医療で連携を図るには」と題して、医師の立場から御講演頂き、私たち訪問看護師が、医師へ、訪問看護を利用する事のメリット、介護保険の説明等を行い、協力を得られる様、積極的に関わる努力を惜しまない事の重要性を話して頂きました。

先生とお話する機会が少ないので、良かったと出席者から好評でした。その後は初めての試みとして、事例検討会を行いました。

出席者29名で、活発な意見交換ができ、今後の仕事に良い刺激剤となりました。軽食をしながら、和気あいあいとした雰囲気の中で催す事ができ、年2回、スタッフ交流会をお願いしたいという意見も出るほどでした。

地区の将来活動について

ハイネス訪問看護ステーション

梨木 京子

東葛北部は、千葉県北部に位置し、三角状突出した面積的には狭いですが五市二町からなり、ステーション数も42ヶ所と大変多い地区でもあります。13年度末の部会では新設のステーションがあり、また人事異動や退職等により管理者の顔ぶれも随分と変わってしまいました。

介護保険がスタートし三年目を迎え、サービスの質が問われるなか、地区部会での研修のあり方も役員会で話し合い、今年度は各ステーションから困難事例を掲げていただきその中からテーマを上げ勉強していくこととしました。10月9日には、事例数が多かった精神疾患の方への看護について焦点を当てて疾病の基礎知識を含め東葛病院精神神経科科長の井上雅喜先生に、二時間半にわたり講義をしていただきました。精神保健指導医であり、地域に入り活躍されている先生ならではのきめ細やかで、解り易いお話でした。

精神看護は経験の無い方も多く不安が先行しがちですが、疾病や薬の効果について正しく理解し、医師や保健所その他の関係機関と連携を図る事でうまくケアが行える事を再認識し、今後増えるであろう精神の方への支援に対し前向きになれたように思えます。

又、痴呆性老人に対する対応のお話では、方言、古い言い回しを活用する。「さつき」「あとで」等の言葉は意味をなさず、混乱を招く、人生の記憶を失った痴呆老人にとってプライドは最後の砦である等、コミュニケーションをとるにあたり注意すべき点を上げていただき大変勉強になりました。

今後も研修を通しサービスの質を高め、在宅ケアチームの一員として中心的役割を担えるよう努力したい。

今後の研修会を担おう

安房・君津訪問看護ステーション

伊藤 良子

今回の研修会は「接遇」担当者は金田と指名され、講師のあてもなく頭をかかえていたある日、「研修はみんなで行うもの」と地区部会長の一言で、至急各ステーションへ講師依頼の紹介をし、三名も紹介があった。

日程や予算などにより、今回は、ちばぎんビジネスサービス(株) 木更津事務センター室長松永君子先生をお願いすることにしました。

当日はJR内房線不通のアクシデントで、急遽講師の迎えをお願いしたり、たくさん協力をいただき本当にみんなで行った研修会であったと感激し感謝しております。

マナーのポイントは相手を考えること、感情のコントロールができること。利用者の期待にこたえること。そして良い印象を与えるため表情美人になる方法など学びました。今日もステーションの一人一人が実践していると思います。

そして私も笑顔一杯で楽しく看護をしていこうと思っています。

訪問看護ステーションゆうこう

泉山 明美

訪問看護ステーションゆうこうは、市川市の南部地区で活動しているステーションです。

平成 八年より立ち上げ地域に根差したサービス提供と『あなたの最高の笑顔がみたいから』と云うキャッチフレーズのもとに開設いたしました。当時より家族交流会を目的として、ヘルパーステーション、ボランティア、公共機関各サービス関係者ももちろん、利用者また利用家族、友人を招き年を忘れるのではなく、一年間のいろんな出来事も翌年のステップアップとして、楽しく過せるよう望んで生活してゆくとゆう意味を含め『望年會』と称し第六回目を迎えました。毎年どんな企画で楽しんでいただこうかと自分達も大変ですが楽しく企画しております。今年も講師を招き『寝たつきにならない為の運動』、その後にミニ運動会を行いパン食い競争や、すいか割、炭鉱節を踊ったりと熱気で盛り上がり、昼食をはさみ「相撲甚句」の素晴らしい歌声と各事業所の紹介と出し物、利用者代表の挨拶と楽しい一日を過ぎて頂きました。今回に限らず、サービス関係者全員で赤いスカートに化粧をしてオニヤンコクラブを踊ったり、お歯黒でハワイアンダンス、学校の先生の参加で演奏会、ゆうこう劇団の公演と楽しい思い出が沢山あります。このような企画を楽しみに毎年50名程度の参加を頂いております。



平成15年度介護報酬の見直し案の概要

今回の見直しで、訪問看護について本体部分の減算はございませんが、緊急時訪問加算 1370 単位については、緊急訪問のない場合に 540 単位/月となります。また、居宅介護支援については、要介護度別の区分がなくなり 850 単位/月の一本化となります。

訪問看護師等による静脈注射等の実施についてのアンケート集計

平成14年11月14日

	静脈注射 (%)	点滴 (%)	皮下注射 (%)	採血 (%)	MT交換 (%)	女性のバルン (%)	男性のバルン (%)	24時間体制 (%)	オンコール (%)
母体無し	3 (37.5%)	5 (62.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	7 (87.5%)	5 (62.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	
母体有り	5 (62.5%)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	3 (37.5%)	4 (50.0%)	4 (50.0%)	
回答無しの小計	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
母体無し	37 (88.1%)	34 (81.0%)	39 (92.9%)	30 (71.4%)	42 (100.0%)	30 (71.4%)	31 (73.8%)	28 (66.7%)	
母体有り	5 (11.9%)	7 (16.7%)	3 (7.1%)	12 (28.6%)	0 (0.0%)	12 (28.6%)	11 (26.2%)	11 (26.2%)	
回答無しの小計	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (7.1%)	
総計	40 (80.0%)	39 (78.0%)	43 (86.0%)	34 (68.0%)	49 (98.0%)	35 (70.0%)	35 (70.0%)	32 (64.0%)	
母体無し	10 (20.0%)	10 (20.0%)	7 (14.0%)	16 (32.0%)	1 (2.0%)	15 (30.0%)	15 (30.0%)	15 (30.0%)	
母体有り	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (6.0%)	

十一月十四日、研修に参加したステーションのアンケート結果

平成15年度 総会の日程
 日時 5月17日 (土)
 場所 葉県看護協会 (看護会館大ホール)
 内容 午前中は総会・午後は総会 (講演等未定)

利用者又は家族に対して24時間連絡体制にあつて、かつ、計画的に訪問することとなっていない緊急時訪問を必要に応じて行う場合の訪問看護の評価の適正化。

緊急時訪問加算

訪問看護ステーションの場合 1,370 単位 → 540 単位/月
 病院・診療所の場合 840 単位 → 290 単位/月

協議会の研修について

昨年十一月十四日、「選ばれる訪問看護をめざして」在宅看護における訪問看護の「独自性」のテーマで、千葉大学看護学部訪問看護学研究室^{上野}より先生を講師としてお招きし開催しました。出席者は約60名でした。

先生のお話は「訪問看護とは」から始まり、看護業務と介護業務の違い、又、看護の独自性^に於いて、質的に看護は業務独占であるということ。選ばれる為にはアセスメントをしっかりと行い、利用者の自己実現や自己超越(現状の自分を超えた欲求)を満たすことができること、「訪問看護の力」を見せ、知ってもらうことである。更に地域にねざした訪問看護活動となるために①地域を知り、どんな人が、どんな暮らしを、何に困って、どうしたいか、どんな治療がどのように提供されているのか、②わがステーションの役割、使命の自覚③必要なスタッフの資質(人材の選定、教育体制)④実践を振り返り、確認し、人に伝える、そしてPR、広報活動である、などでした。その後は、出席者間の思いのたけのディスカッション、久しぶりに活力のある研修でした。

第二回目は

テーマ「訪問介護と訪問看護の連携」

……事例を通して考える……

場所 ぼるる千葉 (詳細は別紙ご案内参照)

照)

日 三月十二日 (水)

時間 午前十時〜十二時三〇分

私たちの仕事と最も関係の深いヘルパーさんたちとはどのような連携がとられているのか、一事例を通して訪問看護ステーション、訪問介護ステーションから各々発表していただき、訪問看護師、ヘルパー合同のグループワークを開催いたします。また、訪問介護に携わる方の訪問看護師への要望等についても、発表をいただく予定です。多くの皆様のご参加お待ちしております。

